

○事業所名	レクタス十日市場		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	面談を通して利用者の状況の把握を行い、それを基により利用者の実態に基づいた計画書を作成している。	計画書の作成については、最低半年に一度の面談を通じて利用者の学校での様子や自宅での過ごし方、また、保護者や本人の希望すること等についてアセスメントを行い、利用者の状況の把握に努めている。得られた情報については、関係する職員と共有を行った上で、客観的な視点から計画書の作成を行うよう努めている。	保護者様の許可を得た上で、学校や他の事業所と連携を取るなどして、お子様の情報をより詳しく把握し、計画書の作成に役立て、より良い支援につなげていく。
2	事業所の支援の内容や利用者負担等について丁寧な説明が行われている。	保護者様の教室見学から子どもの体験利用、そして契約までの流れが体系化できており、その中で、事業所の支援の内容や利用者負担等について丁寧な説明を行っていることが利用者からの信頼や安心感につながっていると思われる。	保護者様からの事業所の利用に関する問い合わせについて、より丁寧な説明ができるよう、職員の意識や理解の向上に努める。
3	日頃から子どもの状況を保護者様と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている。	必要な利用者について定期的にメールや連絡帳を使って事業所での活動の報告を行っている。また、お迎えの際などに保護者様から子どもの状況や課題について報告をいただき、当日の子どもの状態の把握に努めている。	些細なことも事業所と共有できるよう、保護者様との信頼関係をより深め、子どもの発達の状況や課題について共有を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内に段差はほとんどないが、ビルの入り口から事業所に入るまでの間、比較的急な階段を登る必要があり、バリアフリーへの対応が十分ではない。	事業所がビルの2階に入っており、エレベーターもない構造になっているため、身体に障害がある利用者は事業所を利用しにくい状況になっている。	身体に障害のある利用者を受け入れる場合は、階段を付き添ったり利用者を担ぎ上げるなどして教室まで送迎を行う。
2	放課後児童クラブや児童館との交流。また、障害のない子どもと活動する機会が十分ではない。	年に1度、地区センター等を借りて地域の方々が参加可能なお祭りに参加しており、地域住民との交流の機会を設けている。毎年多くの方に参加いただいているが、事業所から利用者への周知が十分でないためか、事業所の利用者の参加は少ない。	チラシの配布やメール等でお知らせを行い、参加者を増やし、地域の方々との交流の機会を増やす。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の連携の支援が十分ではない。	コロナ禍以降、講演会や保護者会等の開催頻度は少なくなっている。	保護者様も参加できるスタッフ研修会を実施するなど、新しいかたちでの交流の場を作り、保護者様同士の連携や交流を深める。

事業所名	レクタス十日市場
------	----------

公表日 令和8年3月31日

利用児童数

45

回収数

24

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	83%	13%		4%		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	88%	8%		4%		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	29%	25%	13%	8%		
適切 な 支 援 の 提 供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	100%					
	5 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	83%	8%		8%		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	13%	38%	4%	46%		
保 護 者 へ の 説 明 等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	96%	4%				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	88%	13%				
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	67%	8%		25%		
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	63%	8%		9%		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	88%	8%		4%		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	67%	17%		17%		
14 個人情報に十分注意しているか	92%			8%			
非 常 時 等 の 対 応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	83%	4%	4%	8%		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	96%			4%		
満 足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	83%	17%				
	18 事業所の支援に満足しているか	100%					
そ の 他	自由記述						
	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも丁寧に対応をしていただき、ありがとうございます。子ども達も通所を楽しみにしています。</li> <li>・いつも丁寧にご対応下さりありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。</li> </ul>					

事業所名		レクタス十日市場		公表日		令和8年 3月 31日		
		チェック項目					工夫している点	課題や改善すべき点
			はい	どちらとも いえない	いいえ	その他		
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%				無理のない利用が可能はスペースを確保している。必要に応じ、個室も支援スペースに活用できるよう環境を整えている。	今後もより良い支援環境を目指して必要な改善を行って行く。
	2	職員の配置数は適切であるか	71%	29%			子どもの支援に適切な人数の職員を配置し支援を進めている。	人数のみでなく、子どもの相性も考慮しながら、適切な人員の配置を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	29%	57%	14%		教室の入るビルにはエレベーターがなく、階段を使用するため、バリアフリーに十分対応できている状況ではない。	階段を使えない利用者に対しては、職員が上り下りを支援するなどして教室の利用に支障がないよう必要な対応を行う。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	71%	29%			毎日のミーティングを通じて日々の課題の共有を行い、その改善点を話し合っている。	毎日のミーティングの時間や定期的な研修の機会を確保し、多くの職員から業務改善への意見を集めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	86%	29%			年に一度事業所評価アンケートを実施し、保護者や職員の意向等を把握し、結果を教室の改善につなげている。	評価が低かった項目について、その原因を精査し、業務の改善に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	57%		43%		自己評価の結果は、毎年事業所のホームページで公開している。	これまで通り、評価アンケートの実施と公開を怠らずに継続していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	43%	29%	29%		法人内他の事業所の職員が定期的に見学を行い、事業所の評価を行っている。またその結果を、業務の改善につなげている。	今後の法人の評価も必要に応じ受け入れていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	86%	14%			より良い支援を実施するため、毎月1回、スタッフ研修会を開催し、支援の質の向上を図っている。	引き続き研修の機会を設け、支援の質の向上に努める。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	57%	43%			最低半年に一度面談を通じてアセスメントを行い、そのアセスメントをもとに個別支援計画を作成している。	より多くの職員に計画書作成の会議に参加してもらい、様々な意見を取り入れながら計画書を作成する。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	43%	57%			全ての子どもに共通して使用するアセスメントツールはないが、保護者からの事前の情報をもとに、複数の職員がその子どもの評価を行い、行動状況の理解を進めている。	今後必要に応じ、標準化されたアセスメントツールの使用を検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	29%	71%			個別や集団のプログラムについて、複数のスタッフがミーティングに参加し、プログラムの内容を考え、支援を行っている。	ミーティングを通じて、様々な職員が活動プログラムのアイデアを出し、支援を実施している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	57%	43%			活動内容がマンネリ化しないよう、定期的を担当する職員を変更するなどの工夫を行っている。	始業ミーティング等の機会を通じ個々の子どもへの活動プログラムの内容を確認し、必要に応じてアドバイザーや複数の職員からの意見を吸い上げ、支援内容に取り入れる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	57%	57%			平日、休日、長期休暇それぞれ異なるプログラムを作成し、子どもが充実した時間を過ごせるよう工夫を行っている。	子どもの課題を精査し、利用状況に応じてより適切な支援をおこなえるよう努めている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	57%	29%	14%		子どもの特性や利用スケジュール等に合わせ、個別活動と集団活動を組み合わせた計画書を作成している。	より子どもの状況に合わせた内容の計画書を作成し、支援を実施していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%				利用者を受け入れる前の時間にその日のスタッフが参加する始業ミーティングを行い、当日の利用者や内容について共有を行っている。	より多くの職員にと情報の共有ができるよう、ノートなどの伝達方法も検討していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	43%	29%	29%		その日の反省点や気になる子どもの様子について、当日のスタッフが共有や今後の対応の検討を行っている。	終業後の打ち合わせについては必要に応じて行っている状況であるので、毎日実施するためにはシフトの調整等が必要。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	86%	14%			個別での支援や集団での指導について当日の様子を記録し、今後の支援の改善に努めている。	モニタリングの際などに参考にできるよう、より正確で詳細な記録を残す必要がある。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	43%	43%	14%		支援内容について日常的にモニタリングを行い、計画見直しの必要性について判断を行っている。	支援の様子についてモニタリングを行ったり、ミーティングを通じて子どもの様子を把握する中で計画見直しの必要性を判断している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	57%	43%			放課後等デイサービスガイドラインをもとに事業所の運営や子どもへの支援を行っている。	全ての職員へガイドラインの周知ができている状況ではない。研修会やミーティングの機会を通じて、職員の意識の向上に努める。
20	障害児相談支援事業所のサービ担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	71%	29%			相談支援員からの要請に応じ、対象の子どもを担当者や直接支援を行っている職員がサービ担当者会議に参加している。	より良い会議を実現するため、複数の職員への会議への参加の必要を感じる。	
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	86%	29%			必要な子どもには保護者様から1か月のスケジュール表をいただき、当月の来室時間等について共有を行っている。	支援内容について日常的にモニタリングを行い、計画見直しの必要性について判断を行っている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	14%	71%	14%	現状、医療的ケアが必要な子どもは受け入れていないが、今後受け入れる場合は必要な連絡体制等を整える。	様々な障がいを持つ子どもが安心して利用できる事業所となるよう改善を進めて行く。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	14%	71%	14%	現在子どもが利用している事業所との情報共有は行っているが、就学前に利用していた事業所との情報共有は、そのようなケースがそもそも少ないため、行っていない。	必要に応じ保育所や児童発達支援事業所と、子どもの様子について情報の共有を行いより良い支援につなげていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	29%	57%	14%	進路先の事業所から要請があれば対応できる体制を整えている。	必要に応じこちらから積極的に情報の共有を行うことも検討する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	14%	57%	29%	課題の多い子どもについて、専門機関と連携し、支援の進め方や情報の共有を行っている。	連携を十分に取り、助言や研修を頻繁に受けている状況ではないので、必要に応じ専門機関との連携を進める必要がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	29%	57%	14%	イベント等を通じ、障害のない子どもや他の施設の利用者と交流を行う機会を設けている。	個人情報保護の観点等から利用者が他の施設や不特定多数の子どもと交流することについては慎重に判断する必要がある。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	43%	43%	14%	近隣の事業所が参加する定例会や自立支援協議会に参加し、地域の事業所との連携を深めたり、研修に参加するなどして支援の質の向上に努めている。	自立支援協議会については十分な頻度で参加しているとは言えない、今後は予定を統制し、できるだけ参加できるよう努めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	71%	29%		メールや連絡帳を使って子どもの活動の様子や課題について保護者様と共有を行っている。	活動の報告については全ての子どもに実施できている状況ではないので、利用者の状況に合わせて適切な方法で保護者への状況の報告を行う必要がある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	29%	71%		当日の活動内容の報告を通じて子どもへの適切ななかかわり方を伝えたり、面談や教育相談の機会を通じて、保護者様の対応力の向上を支援している。	ペアレント・トレーニングに特化した支援プログラムは実践できていない。
	保護者への説明責任等	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	86%	14%		契約時や面談の機会を通じて、事業所の支援の内容や負担額等について説明を行っている。
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	71%	29%		相談の依頼を受けた場合は、児発管や教育アドバイザーが保護者の相談に対応し、必要な助言やアドバイスを行っている。	研修会等の機会を通じて支援の進め方や相談に対するより良い対応を学び、支援の室の向上に努める。
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援をしているか	43%	43%	14%	参加の保護者様が情報交換や連携を行えるよう講演会や保護者会を実施している。	これまでの保護者の集まりについては、講演会の形式をとっているため、保護者同士の連携を支援する目的としての保護者会を今後検討する。
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	71%	29%		子どもや保護者様からの苦情があった場合は、迅速かつ適切に対応する体制を整えている。	苦情を受けた場合の対応について、研修等の機会も設け、対応力の向上を図る必要がある。
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	71%	29%		年間の活動予定を発行し、子どもや保護者様へ活動の予定を周知している。	会報については現在発行をしていないので、保護者の方に活動の様子を知ってもらうためにも何らかのかたちで情報の発信を行う必要を感じている。
35		個人情報に十分注意しているか	100%			個人情報を含む書類については、鍵付き書庫に保管し、職員以外が閲覧できないようにしている。	パソコンやタブレットの保管方法に課題を感じているので、対応を考えたい。
36		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	86%	14%		来室が難しい保護者へオンラインでの面談の実施を提案するなど、多くの利用者に事業所を利用いただけるよう。配慮を行っている。	事業所として配慮を行っているが、利用者にとって十分であるかは不明な部分がある。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	29%	57%	14%	年に一度、周辺の事業所が集まり出しもを行う催しに参加し、地域の人達と交流を行う機会を設けている。	事業所個別では行事等を聞いていない。個人情報保護の観点からも実施することが利用者から望まれているかの判断は難しいと感じる。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	86%	14%		年間行事の中に各種訓練の予定を入れ、職員が参加している。また、訓練を実施することについて保護者への周知を行っている。	各種訓練に関するマニュアルについて、保護者様への周知は十分ではない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%			地震や火災は発生したことを想定した訓練を、年に複数回実施している。また、消火器や避難はしご等について必要な点検を定期的に行っている。	各種訓練は定期的に実施しているが、より具体的で実態に則した訓練を実施する必要があると感じる。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%			虐待防止委員会を設置し、年に1度の虐待防止研修の機会を設け、職員の虐待防止に関する意識の向上を図っている。	虐待や身体拘束の認識を職員間で統一できるように、研修会等の機会を通じて意識をより高めていくよう努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	86%	14%		身体拘束について年に1度の研修会を実施し職員の意識の向上に努めている。	必要に応じ計画書に身体拘束の許可を得る旨の記載をし、保護者への了解を得る。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	43%	57%		保護者様からアレルギーに関する情報を得て、お菓子の提供の際などに必要な対応を行っている。	調理イベントなども行っているため、食物アレルギーについてはより、慎重に対応を考えていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	71%	29%		ヒヤリハットが発生した場合は報告書を作成し、スタッフ間での共有を行っている。	時間とともに危険に対する意識が薄れていかないうち、日常的に危険個所の確認や共有を行う。
その他	44	自由記述					